

令和 7 年度第 2 回「防府市農林業政策懇話会」 議事録等

■開催日時・場所

令和 8 年 3 月 1 9 日（木）午後 3 時 0 0 分から午後 4 時 4 0 分まで
防府市文化センター（防府市役所本館 8 階）

■次第

- 1 まちづくりについて
(1) 第 6 次防府市総合計画の概略について
- 2 農林業関係事業について
(1) 令和 8 年度農林業に関する当初予算（案）の概要について
- 3 防府市の農林業の活性化に向けた意見交換

■配付資料

	資料名
1	第 6 次防府市総合計画（抜粋版）
2	令和 8 年度当初予算（案）の概要
3	令和 8 年度農林業に関する当初予算（案）の概要

■委員等出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田 豊	防府市長	出
農林業関係団体	石丸 和美	山口県農業協同組合防府とくち統括本部 本部長	出
	渡邊 浩信	山口県中央森林組合 組合長	出
	藤井 伸昌	防府市農業委員会 会長	出
農業関係者	岡本 拓実	水稲・麦	出
	池田 英雄	畜産	出
	原田 慎司	露地野菜	出
農林業の知と技の拠点	柳井 寧	山口県農林総合技術センター 企画戦略部 部長	出
やまぐち農林振興公社	沖 敏雄	担い手・新事業支援部 部長	出
商工業団体	松田 和彦	防府商工会議所 専務理事	代理出席
	代理：防府商工会議所 事務局長 中司 正樹		
流通関係団体	松原 正範	株式会社丸久 青果部長	出
観光関係団体	中谷 泰	(一社) 防府観光コンベンション協会 会長	出
その他関係団体	阿部 幹恵	防府市生活改善実行グループ連絡協議会 会長	出
公募	熊安 悦子		出
	山本 友花		出

■会議録

1 まちづくりについて

- ・第6次防府市総合計画の概略について、会長から資料説明。

2 農林行関係事業について

- ・令和8年度農林業に関する当初予算（案）の概要について事務局から資料説明。

3 各委員による意見

会長 | 委員の皆さんから御意見をいただきたい。

A委員 | 県の来年度予算（案）と農林業の知と技の拠点の取組を紹介する。県の来年度の農林水産全体の予算は、対前年度比106.9で、しっかり確保されている。拠点としては、技術の開発や担い手の育成にしっかり取り組んでいきたい。拠点は技術の開発、担い手の育成、県民との連携交流を3本柱として取組を進めている。特に防府市とは、担い手育成の分野で連携して取り組んでいる。今年度の農大の卒業生は、19名中16名が防府市農業公社を含めた農業関連企業に就職する。農業関連企業等への就職率が高いのは、就農ガイダンス等を通じた皆様の御協力の結果と思っている。また、来年度の入学者の見込みも27名と増えており、社会人を対象とした担い手養成研修も令和7年度は6名であったが、令和8年度は17名の見込みと大幅に増えている。

連携交流では、連携交流館のオープンラボを一般の方に開放し、県産農林水産物の付加価値を高める6次産業化の取組を支援、技術的な助言や相談に対応している。

会長 | 担い手対策等、引き続き連携して取り組んでいきたいのでよろしくお願いします。

B委員 | 市の土地利用型農業推進プロジェクトは、JAも市と一緒に、小中学校給食に提供するお米の生産に協力していきたい。

資料2の56ページにある「物価高騰対策」の、「市民の「食」と「くらし」応援事業」のおこめ券配布は、米の需要喚起や消費者の米離れの抑制効果があるのではないかと非常に期待している。

米の価格について、今、国産米の販売価格は5kgで3,000円～4,000円台と若干下がっている、今後どうなるか注視していく。生産者に支払う概算金も下がるのではないと思うが、あまり下がると生産者にとって、非常に厳しい状況となるため、その辺はバランスを取る必要があるのではないかと考えている。

また、同じく資料の56ページにある、「社会福祉施設等物価高騰支援事業」についても米の需要喚起につながる取組であり、感謝する。

会長 | お米券の配布は、米の需要を確保する目的もある。米の需要があることで、価格も安

定していくと思うので、行政としてもしっかり取り組んでいく必要がある。

C 委員

地元地域では、ほ場整備事業の計画が進んでいる。今後、担い手や耕作する作物、設備投資などの課題も出てくる。他の地域とも連携して課題解決につなげたいと思い、検討している取組があるので報告する。

佐波川流域の地域で、砂地特性をいかして、サツマイモを産地化できないかと検討し、産地見学も行っている。サツマイモは貯蔵や加工ができることを含め、魅力的な作物である。今後、どのくらい作付けを行うか、販売やブランディングのことも含め、農協等に相談をしている。今後、産地化の話が進んだ際は、貯蔵や加工場として、現青果市場を農業関連施設として使えたらよいと思っている。

会長

産地にするためには、耕作や販売など農協と一緒にあって、地域を挙げて進めていく必要がある。一定の量を出さないと産地にはならないので、委員に先頭を切っていただきたい。また、農林業の知と技の拠点もあるので、品種改良や、6次産業化も踏まえ、県レベルになるのかもしれないが、プロジェクトチームのようなものがあれば、一緒に進めていくと良いと思う。地域で引っ張っていただきたい。

D 委員

先ほどと同じ話になるが、昨年、試しにサツマイモを 10 a ほど耕作し、農薬、肥料なしでも平均の収量は取れたが、キュアリング（収穫したサツマイモ等に適度な温度や湿度を与え、傷口をコルク化させ貯蔵中の腐敗を防ぐ）処理ができていないため、1 t くらい廃棄した。このような施設を個人で準備することはハードルが高いため、青果市場等を利用し、貯蔵、加工、出荷が行える共同利用型の施設整備をお願いしたい。

会長

産地化は個々の農家だと難しい。地域をあげて売り込むための量を確保する必要がある。個々ではなくグループで、どなたかにリーダーシップを取ってもらい、産地化に向けた計画を作り、見通しが立てば、県にも協力していただけると思う。

E 委員

防府市では、2050 年の森づくりプロジェクトの中で様々な施策を実施されている。資料 3 の 17 ページに伐採見学や植林体験などの記載があるが、これらは森の循環の一部として、大変重要なことだと思っている。

昨年 3 月の会議で、2050 年の森の表示看板などの設置について意見を述べたが、表示看板はもとより、プロジェクトをわかりやすく説明した看板もあわせて設置され、大変うれしく思う。

様々な施策を実施しながら、看板等での宣伝を継続的に実施していけば、市も林業もともに発展していくのではないかと思います。

会長

2050 年の森づくりは、2050 年まで続けていきたいと思っている。今作っている木製遊具も古くなったら修理はせず、次の木製の遊具を作り、循環させたい。今後は、農道牟

	礼小野線が完成したら、木製の案内看板を作っていきたい。 また、ものづくり体験では、体験教室を開催される方が、昨年も県外で大平山の木を使った体験教室をされている。防府の木を全国にPRするとともに、ものづくりを通して、こどもの頃から木に親しんでもらいたいと思っている。
F 委員	飼料の高騰、高止まりが続いており、畜産農家は非常に経営が厳しい状況である。耕畜連携により、WCSの収穫量を増やす等、対応している。品質も安定してきているが、まだ足りない状況である。特に酪農は、労働力や乳価の問題から、経営を継続していくことが相当難しくなっており、廃業する農家も出てきている。
会長	酪農農家の数が減ってきているということだが、乳製品は一定の需要があるため、それは確保しなければいけないと思っている。
G 委員	飼料の生産は引き続き協力していこうと思う。 一昨年ぐらいから乾田直播に取り組んでいるが、収量が安定してきたので、さらなる向上を目指す。 また、私自身防災士であるが、土地利用型農業は水に携わるため、社員にも防災士の資格を取らせることを考えている。
会長	今年、防府市では72時間の防災訓練をしようと思っている。その際には、お力添え、御協力をお願いする。
H 委員	昨年、農林業センサスが5年ぶりに発表された。それによると山口県は、農業従事者が約1万人であり、5年前と比べて約33%減少している。面積も約2万haとなっており、5年前と比べて約15%減少している。農業従事者の平均年齢も高く、全国に比べ高齢化が進んでいる状況であり農業公社の果たす役割は大きいと考える。 また、防府市では複数の地区では場整備が進められているが、このままでは将来、担い手が不足する状況が予想される。県、防府市、各法人が担い手育成に力をいれているということなので、続けていただきたい。担い手を育成していく先で、法人間が連携し、将来に向けて活動する流れにつなげていければ良いと思っている。
会長	高齢化の問題は、私が県にいたときからあり、対策していかなければならない。集落営農法人の方や、農業者が頑張ってみようという空気を作ることが行政の仕事と思っている。農協や農林業の知と技の拠点と一緒に、農業施策に取り組んでいきたいと思う。
I 委員	担い手の確保について、県内外でのリクルート活動に取り組んでいる。来年度は、8月9日の日曜日に、例年と場所を変更し、KDDIホールで新規就農ガイダンスを行

	う。担い手の確保については、移住関係に少し重きを置いて取り組んでいく。 また、6次産業化や農商工連携等、商品試作やパッケージ開発等、新事業の支援も行っている。専門職（プランナー）の派遣もしているので、活用していただきたい。
会長	今後もサポートや御指導をお願いします。
J 委員	資料3の7～8ページについて、魚市場の跡地に青果市場が移転することにより、牟礼にある農林業の知と技の拠点に加え、新たに流通の拠点が增える。集約し、効率的に経済活動が行われるようになると考えられ嬉しく思う。 今後は、青果、水産が一体となった魅力に溢れた朝市などを開催し、一層、地元の農林水産物をPRしていただきたい。地元の産品を知っていただき、消費が拡大していけば、関係者の方の所得アップに繋がっていくと思われるので、御支援をお願いします。
会長	一次産業拠点として、流通拠点として、水産、青果、潮彩、緑地等もいかし、移転してよかったというような形にしていきたい。
K 委員	潮彩エリア活性化プロジェクトについて、市場のスペースがかなりスケールダウンするとのこと。その中で、実際どういうことができるのか、新しい市場の運営もまだはつきり聞いていないので、そういったところも含めて、このプロジェクトに参加させていただきたいと思う。 防府市産の春菊を山口県下の全店舗で販売している。県全体で販売できる防府市産の農産物が増えていけば、生産意欲も上がってくるのではないかと思いますので、検討していただきたい。
会長	県下で販売するには量も必要となるため課題は大きいですが、県下に店舗を持つスーパーマーケットの本社が防府市にある強みをいかし、青果物が県内で売れるよう取り組んでいきたい。
L 委員	市の施策として計画は立ててあるが、なかなか課題解消に至らない問題もあると思う。生産者のおかげで、商売等も成り立っている。この懇話会から、解決につながるような提案が出てくると良いと感じている。
会長	農業に係る課題は何十年にも渡るもので、長年農業に携われている方にとっては、かなり進んだと思われていると思う。ほ場整備は他の事業と違い最低でも数年かかるが、スピード感をもって進めている。また新規就農者に関することや耕作放棄地対策等もこの懇話会の提案によるものであり、少しずつかもしれないが、各々進めている。ただし、長年の課題である高齢化問題のように、対策をしているが結果として進行している課題もあるので、皆さんの意見を聞かせていただきたい。

M委員	自分が所属する団体では、防府には農産物はたくさんあるが、それを加工するための施設がないという話がよくでる。規格外の野菜の有効活用や付加価値をつけて販売する機会を失っているのではないかなと思う。今は、衛生面等から、家庭で作った加工品を販売することができなくなってしまった。農業においても、生産だけでなく加工・販売まで出来れば、仕事の創出に繋がり、若者の定住、流出防止になるのではないかなと思う。小規模でも良いので共同の加工所や時間貸しができるシェアキッチンのようなものがあれば良いと思う。
会長	様々な就職口がある中で、加工所があるからといって、それを就職先に選ぶかは難しい問題である。実際、6次産業化については、農林業の知と技の拠点で支援を行っており、やる気がある方は取り組まれている。仮にそのような施設を建てても本当に使うのかという問題もある。そういった話が具体的にあり需要があれば、市や農協としても考えられると思うが、まずは自分たちでしっかり取り組んでいただきたい。
N委員	私は、園芸療法士兼ハーブインストラクターで、ハーブ教室をしている。また、私自身サフランを栽培しており、産地化したいと思い、若い人たちが集まる席では、サフランを勉強し育てることを勧めている。 最近では、農業を楽しく健康になることができる手段としてとらえ、定年後に農業をしたいという相談もある。農業者には60～70歳代が多いといわれているが、定年後に頑張られる方も多い。耕作されていない田や畑をいかし農業をすることで、身体・精神・社会的に元気な高齢者が増えると思っている。園芸療法士として、高齢者が農業をすることを前向きにとらえている。また、農作業での人手不足解消には農福連携を活用したいと思っている。 話は変わるが、新年度事業の「野島活性化プロジェクト」についてお聞きしたい。
会長	防府市は農福連携に力を入れており、新年度は、農福連携に取り組む事業所に必要な物を整備していきたいと思っている。 野島には昔200人位のこどもがいたが、今は居住者50人程度でこどもは0人の状況。そうした中、新年度から、野島小・中学校の受入対象を市内から県内に拡充したことで、新たに10人のこどもが野島の学校に通うことになった。そこで看板等を少しずつ綺麗にし、将来的には出張所等市の出先機関を学校に集約させて、学校も綺麗にしていきたいと思っている。また、私の理想ではあるが、デイサービスの人たちが野島に渡り、子供たちと触れ合うことで、双方元気になってもらいたい。集約した施設の集会所等をデイサービスで活用することで、野島が活性化するのではないかなと思っている。 また、野島は猫の島といわれている。先日、アスピラートで野島に住む猫をテーマにした公募作品展を開催していたが、その入賞作品を船に飾り、乗船券は猫の絵を使ったものにする予定。野島が活性化するようPRしていく。

会長

一次産業は、様々な課題を抱えているが、少しでも前に進んでいきたいと思っている。
次の総合計画がこの4月1日からスタートする。スピード感を持って、農林業にもしっ
かり取り組んでいく。

閉会